

赤江から「やすぎオーガニックビレッジ構想」への発展

1. 赤江・オーガニックファーム(安来市)

【結 成】H27年

【メンバー】結成当時3人→現在6人

【施設面積】

当時76a

→現在245a (R7.2月現在)

【施設棟数】

当時34棟

→現在108棟 (R7.2月現在)

【経営品目】ほうれん草、
小松菜、水菜、春菊等

【出荷先】

主に関西方面、
学校給食

ハウス内の葉物野菜

2. 取組の経過及び概要

安全でおいしい野菜を消費者に提供したいと集まった県東部の生産者グループ「島根おやさい本舗」のメンバーの中で、有機JAS認証を取得したUIターン者で「赤江・オーガニックファーム」を結成。年間を通じて葉物野菜を生産し、生産と販売を拡大。ハウス面積は当初の76aから現在245aに拡大中。

また、同じ志をもつ研修生の受入れから就農まで支援することで仲間を増やす取組を実践。

平均年齢が50歳代と若いメンバーたちが様々な社会経験を農業経営に活かし、赤江・オーガニックファームを全国区にしたいと情熱を注ぐ。

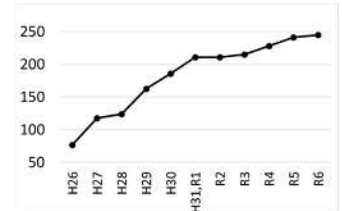


100棟を超えるハウス団地

3. 取組の成果

(1) 有機JAS認証の拡大

有機野菜の生産拡大に向けて補助事業を活用し、ハウスの増棟を進め、有機JAS認証面積も順次拡大。



有機JAS認証面積の推移(a)

(2) 師弟研修制度の確立による新規就農者の増加

安来市では、就農希望者が県指導農業士・認定農業者のもとで栽培・経営の両面を研修・習得後に就農する支援制度を整備。

赤江・オーガニックファームでも指導農業士が、就農前研修を受け入れ、H30年度に受け入れた研修生2名のうち1名が翌年に同ファームへ加入しメンバーが6名に増加。



新規就農者の研修

(3) 学校給食への提供

赤江・オーガニックファームで有機栽培されたほうれん草、小松菜、水菜、春菊は安来市の学校給食にも提供され、地元産食材として活用。

安定した生産のため、新たな仲間を増やし、面積の拡大をしていきたい。
もっと県内の消費者に有機農産物について知って食べてほしい。

岸川 勉 代表 (57才)



有機JAS認証農産物

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 有機JASを取得した葉物野菜の他産地が現れてきており、葉物以外の品目拡大が必要。
- (2) 安来市で策定見込みの「やすぎオーガニックビレッジ構想」による安来市全体の有機農業、有機JAS農産物振興の実現。
- (3) 規模拡大や労力確保に向けた共同調製体制の検討および、事業継承を想定した担い手の確保・育成。